支部だより

シンガポール支部

幹事　福田圭馬（C平10）

世界経済不況もどこ吹く風、オーチャードロードには続々と新規ショッピングモールが誕生し、恒例のクリスマスのイルミネーションに華やかに彩られた大通りは世界各地からの観光客で溢れています。2009年12月4日、そのオーチャードロードの一角にあるプラザシンガプーラにて教育改革の調査目的にてシンガポール大学を訪問されました富盛副学長、岡田昭人准教授、吉田教務課長をお迎えして、シンガポール外語会を開催致しました。富盛副学長より東京外国語大学 action plan 2009 を基に教育研究の取り組み、外語大の近況・就職状況に続いて同窓会組織とのネットワーク強化(Global Network 及び e-alumni)のご説明を頂きました。締めには岡田准教授に扇子を使った日本古来の舞いもご披露いただき、2009年のシンガポール外語会納会はめでたくお開きとなりました。

福岡外語会

安部有樹（C平14）

11月28日（土）、中華料理店「威海（ウェイハイ）」にて、初参加となる江尻陽一さん（R昭46）、真藤悠子さん（F平12）を加えた計17名の出席で、福岡支部総会が開かれました。冒頭、元福岡支部長・故田所信成先輩（Ic19）への黙祷の後、2009年度の活動、会計状況を報告。承認を得た後、井上國義先輩（E昭21）による乾杯のご発声で懇親会に移りました。色とりどりの中華料理に舌鼓を打ちながら、旧交を温めると同時に、新たな出会いを満喫。最後に出席者全員に来年の健康を祈願する景品が配られ散会。会員一同、充実した初冬の一夜を過ごしました。今年の総会は、今後の会の発展を予感させる要素が何点かありました。まず遠田公夫先輩（Ic昭47）より、九州の外語会支部が一堂に会する合同外語会のご提案。大変興味深く、実現できれば、会の更なる発展につながるのではないでしょうか。また、福岡在住の大阪外語（現大阪大）卒業生からも参加の意向がありました。今回は残念ながら出席は叶いませんでしたが、次回以降参加していただけることを楽しみにしています。

福岡支部は平素から、メールやSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）などを通じた交流が盛んです。こうしたコミュニケーションツールを駆使し、会の存在をより多くの在福岡卒業生に知っていただきたいと思います。そして交流、情報共有、創造の場として、会が発展していくことを願って止みません。

外語会新潟支部の総会開催

桐生裕子（E昭49）

2009年10月31日（土）、新潟市郊外にある

ワイナリー「カーブドッチ」において、外語会新潟支部の総会が開催されました。秋晴れの紅葉が美しい自然に囲まれたレストランを背景に参加者で記念撮影をした後、ワイナリーを見学し、その後、総会と懇親会が行われました。まず、稲垣文雄会長の挨拶の後、さっそく乾杯でなごやかに会がスタートし、参加者が順番に一言ずつ近況を報告した。今回の参加者は、同伴のご家族の方を含め23名。70代の会社社長からこの春卒業したばかりのメディア記者まで幅広い顔ぶれです。かつては圧倒的に学校の先生が多かったのですが、今は会員の職業も、会社経営、公務員、芸術家、メディア等時代を反映して多様化が進んでいます。また、同窓会というととかく若い人は敬遠し、そろそろ退職という年代になってようやく出席するのが一般的になりがち。我が新潟支部もご多分に漏れずであったものが、数年前から比較的若い女性たちが幹事を仰せつかり、会場も会員が経営するワイナリーや日本地ビール第1号認定のブルワリーを選んだり、会員にインド舞踊や義太夫のプロがいらっしゃるのを見つけて会でご披露いただいたり、そして、ご家族の同伴可としたのをきっかけに、性別や年代も多様な会に様変わりしたようです。

お料理は和モダン。そして、もちろんお料理に合った各種ワインがふるまわれます。ワインの瓶が空いていくのにつれ会も大いに盛り上がり、夜も更けたころようやく、今回幹事をやってくださった事務局長の富山栄子さん、事務局の森田奈津子さん、田村祥子さんに感謝しつつ懇親会はお開きになりました。

今回の会場を改めてご紹介すると、外語会新潟支部のメンバーである落希一郎さんが経営するワイナリー「カーブドッチ（「落さんの酒蔵」という意味）」は、新潟市中心部からは車で約30分の丘陵地にあります。ドイツのワイナリーでワインづくりの修業をされた後、日本でそれを実践すべくブドウづくりに適する土地を全国に捜しまわった末に、十数年前、ここ新潟の砂地を気にいって、ブドウ畑とワイン醸造所から事業をスタートされたのだとか。「ワイン作り」は農業だという持論をお持ちの落さんは、いつお邪魔しても真っ黒に日焼けしたお顔で、自らブドウ園や薔薇園の草取りなどに精を出しておいでです。訪れるたびに、各種レストラン、バラ園などオーナーこだわりの施設が新たに加わり、今回は、ついに温泉つきの宿泊施設とエステティックサロンまでがオープンしたのです。メンバーの何人かは、せっかくの機会を逃さず、宿泊して温泉とおしゃべりを更に満喫したのでした。

他の支部の皆さまからも新潟を是非訪れていただいて、今や新潟の誇る観光名所のひとつともいえるワイナリーにもお立ち寄りいただけたらと思っております。

マニラ支部

神山友宏（Ph平21）

2月17日の晩、昨年に続き日比友好週間の催しに合わせ来比された川津泰人さん（I昭43、フィリピン協会評議員、93年より4年間マニラ駐在）を囲み、マカティ市中心部の高級ショッピングモール「グリーンベルト5」内のフィリピン料理店「Fely J's」にマニラ支部のメンバーが集いました。川津さんは1年ぶりのフィリピン料理（シシグ、シニガン、ピナクベット、パンシット等）とサンミゲル・ビールを心行くまで楽しまれ、合唱で鍛えられた美声もほんの少し聴かせて下さいました。川津さんが「ここ1年で街の様子がだいぶ変わりましたね」と驚かれていた通り、フィリピンは殆ど金融危機の影響を受けず、首都圏を中心に、商業施設、オフィスビル、住宅の建設が続き、国民の消費意欲は衰えを見せていません。月に一度はベトナムに出張されるという中原秀夫さん（U昭48、

新日鉄、東京外語会マニラ支部長）は「フィリピンもさることながら、ベトナムの急成長ぶりには目を見張るものがある」と、話題はアジア経済のパワーに移っていきました。今回は、駐在4年目を迎える梨本博さん（Pr平1、三菱商事、東京外語会マニラ支部幹事）と順子さん（旧姓：三田、Pr昭63）、ベトナム科在籍（休学）中の中村聡子さん（日本大使館）、そして私、神山友宏（日本大使館）が参加しました。

一方、これに先立つ1月30日の晩には、和食店が立ち並ぶマカティ市「リトル・トーキョー」内の和食店「野田庄」で、東京・大阪両外大の同窓生に阪大同窓生も加わる3大学同窓生の合同新年会が開かれました。これまでマニラでは、当支部単独の会合以外に東京・大阪両外大の同窓生が年に1、2度、懇親会を開き、外大戦、専攻語、過去・現在の駐在先などの話題に花を咲かせていましたが、今回は、大阪外大・阪大の合併を機に両大学の同窓会（「咲耶会」・「待兼会」）と当支部の各代表が合同懇親会を企画、初の顔合わせが実現したものです。中には、既知の面々との「意外な縁」を再発見し、意気投合する場面もあり、笑顔と熱気に溢れる新年会となりました。

当支部からの参加者は次の通り（敬称略）。齋藤勝春（S昭43、フィリピン永住）、川口隆吉（U昭46、サンロケパワー）、中原秀夫（前出）、草田光逸（F昭50、伊藤忠）、吉海江譲（C昭56、三井物産）、照屋剛（E昭51）、梨本博（前出）、坂本美由紀（D平14）、大石真利奈及び立部知保里（ともにフィリピン科在学、フィリピン大留学中）、神山友宏（前出）。

ウランバートル支部発足

小山勲（M平12）

モンゴルは今年の冬は大変冷え込み、日中でもマイナス30度、夜間はマイナス40度を超える日もありました。地方ではゾド（雪害）がおき、何百万頭もの家畜が死亡したと報じられています。

外語会ウランバートル支部は発足（復興？）してまだ3ヶ月です。モンゴルでの在留邦人は約400人程度で日本人コミュニティはそれ程大きくはありませんが、そのなかで外語卒業生は6名程度で、それに数名の留学生（現役学生）がいます。そのうち外語卒業生の多くは大使館職員です。この春からも2名の東外大卒業生がスタッフに加わる予定です。12月の発足後、決起集会をかねて食事会を行なうことを検討していましたが、仕事の兼ね合いで調整がつかず、現在のところ集いは開催されていません。

支部長の城所卓雄（M昭44）特命全権大使は、1973年にモンゴルにおける大使館開設の際に勤務しており、90年代の3年余りの勤務を経て、昨年2009年3月に大使として赴任しました。

現在のモンゴルは、37年前とは大きく様変わりし、比較にならないほど発展しているとよく話しています。特に、70年代にはほとんどいなかった日本語学習者ですが、現在人口270万人を擁するモンゴルで、日本語日本文化の教育が大変盛んに行なわれています。2006年の調査によると、小・中・高校及び大学等合計90の教育機関において、合計12,620人が日本語を学んでいます。これは我々日本人にとっては非常に嬉しいことです。

また、70年代には外国人が入れるレストランがほとんどなかったそうですが、現在ではウランバートル市内だけでもかなりの数のホテル、レストランが並び、郊外には観光客用のゲル（移動式テント）キャンプが数多くあります。ここ数年で日本食のレストランも増え、現在では市内に10数箇所の日本食レストランがあります。4月1日からは日本人のモンゴルにおける短期滞在査証が免除になりましたので、これを機に日本とモンゴルが今まで以上に近い存在になってくれればと思います。

東京外語会ロサンゼルス支部　新年会の報告

山口憲和（C 平 2）

去る 2010 年 1 月 31 日(日)のランチタイムに、ロサンゼルス　ダウンタウンよりも少し南に位置するトーランス市にて、東京外語会ロサンゼルス支部の新年会を開催いたしました。今年の会場は、トーランス市に新しく建設された MIYAKO　HYBRID　HOTEL http://miyakohybridhotel.com/　の中にある権八レストランでした。新しいホテルのレストランということもあって、2010 年という新しい年を迎えるのに相応しい会場ではなかったかと思います。車で 2 時間弱の場所に住まわれている方は、せっかくの機会だということで、このホテルにお泊りになっていました。

この日は会場に 14 名の方が参加。ロサンゼルス支部の会員数は全員でも 20 名程度ですが、会員数の割りにご参加者が多いのは、毎回、皆さんご夫婦揃って参加されるからです。昭和 24 年ロシア語学科卒業の眞井大先輩から、昭和 40 年代に卒業された先輩方が集まりました。ロサンゼルス支部の会長の堀川先輩は昭和 50 年中国語学科卒業です。

毎回集まる度に話題になるのは、健康のお話。引退をされた先輩方は、日本へ帰国するかアメリカに残るかの選択をいろいろな要素で考えていらっしゃいますが、やはりアメリカの医療費の高さを考えて、日本に帰国される方もいらっしゃいます。青い空と輝く太陽がロサンゼルスの宝。この日もあったかいポカポカ陽気で、中庭のテーブルを囲んでランチの後に談笑。皆さんで、記念写真を撮りました。今年も素晴らしい年にしたいと思っております。

イタリア支部再開のお知らせ

大島悦子（I 昭 49）

ミラノの大島悦子（JAPANITALY.COM 社代表）です。東京外語会のイタリア支部はここ数年「休眠」していましたが今年 2 月にミラノで再開されましたのでご報告させていただきます。

私は 1990 年からミラノ在住ですが、90 年代後半ごろまでは年 1 回程度、外語会例会（夕食会）が開催されていました。幹事の方の転勤等で例会が途絶えましたが、その後、張あさこさん（I 平 1）がミラノに在住されたころ名簿作成に尽力いただき、2004 年に帰国された際には名簿を残して下さっています。その後、2008 年 3 月、イタリア語科の恩師マリーザ・ディ・ルッソ先生の日本政府からの叙勲を記念してイタリア在住のイタ科卒業生有志がミラノでお祝いの会を開催し、ミラノだけでなくローマ、フィレンツェ、ヴェネツィア、さらにはシチリアのカターニャからも卒業生 14 名が集まり、その際にイタ科卒業生についてはかなり名簿が整備されました。

昨年 12 月、東外大同窓会イタリア会の茂木厚郎会長よりご丁寧なメールで支部再開の要請をいただきましたので、卒業年度(I 昭 49)、ミラノ在住 20 年！という年功序列！で、僭越ながら私が支部長をお受けすることになりました。

支部再開にあたっては、去る 2 月 12 日の夕方、弊社にミラノ在住で日ごろから連絡をとりあっている OB&OG の方々 6 名に集まっていただき再開立上げ式を行いました。集合して下さった方々に幹事を引き受けていただき、イタリアキャノン勤務の松田二郎さん（I 昭 52）に代表幹事をお願いしました。支部の体制は下記の通りです。

支部長　大島悦子、代表幹事　松田二郎（I 昭 52）、幹事　松山二郎（I 昭 50）、鈴木道代（S 昭 52）、今野里美（I 平 2）、丸山圭子（I 平 3）、旧姓・古川澄子（I 平 6）。

現在、支部の名簿登録作業を進めています。本誌をみた OB&OG の方は下記アドレスにご連絡ください。イタリア支部が外語卒業生のフレンドリーな親睦の場となることを願っています。

年会費などは徴収せず連絡方法は原則メールでということで、シンプルで透明度の高い運営を心がけたいと思います。今後の予定としては今年 10 月ごろ、土曜日のお昼にイタリア支部総会をミラノで開催する予定です。多くの皆さんの参加をお待ちしています。
Email： tougaidai@libero.it

東京外語会サンパウロ支部

岩田優子(Po 平 19)

3 月 24 日(水)にブラジル、サンパウロの Golden China にて近々ご帰国される藤崎誠寿さん(I 昭 40)の送別会が行われました。総勢 10 名で円卓を囲み、 豪華な中華のコースを食べながら話は盛り上がり、華やかな見送りになりました。

ブラジルに来て早一ヶ月、地球の裏側のブラジルに(ブラジル人にとってはブラジルが「表側」とのことですが)外語会なるものが存在しようとは想像だにしていませんでした。ブラジルに企業研修生として来たところ、意外にも日本人の方々が多く、この地での出会いを有難く感じていたところです。見知らぬメンバーに飛び込んで行くのは少し勇気がいることでしたが、思い切って日本人街、Liberdade のドアをくぐりました。恐る恐る入ったのですが、にこやかな笑顔で迎えられ安心したものです。

今回の会に出席されたのは、支部長の砂古友久さん(Po 昭 26)をはじめとして経験豊富な大先輩の方々。ブラジルの通信事情からチリでのサーモンの養殖の新技術まで、本当に多岐に亘る、いつまでも尽きない話題でした。そんな中でも、ポルトガル語の辞書にない単語の意味を新聞の切抜きと共に辞書に追加しているという砂古さんの使い古された辞書に一同感心したことや、鈴木孝憲さん(Po 昭 36)の翻訳経験から議論になった外国語辞書の充実度はやはり英語辞書が最高と意見一致、最近はインターネットサイトも翻訳の助けになる話、伊藤友久さん(Po 昭 51)が話していた優秀な通訳者の重要性の話などは、外語会ならではの話題ではなかったかと思われます。

藤崎さんに初めてお会いした私ですが、帰る頃にはブラジル滞在経験が計 15 年という優しい表情の藤崎さんとお話する機会が当分ないことを残念に感じ始めていました。来伯される方、帰国される方、多くの方々にお会いしてはお別れする日々ですが、一期一会という言葉を胸に、ぜひこのご縁を大切にさせていただきたいと思います。外語会という貴重な場に参加させていただけたことに対する感謝の念をこの場をお借りして述べさせていただきます。

久々のマドリード外語会

黒田薫子 (S 昭 54)

2010 年 3 月 25 日、マドリード在住外語会メンバーが市内の日本料理店「大吉」に集まりました。久々の開催という認識も参加者によってまちまちで、十数年ぶり、あるいは二十数年ぶりかも、と意見も様々でしたが、いずれにしても老若男女スペイン科（卒業または現役）9 名が共に楽しいひと時を過ごしました。懐かしい先生方の思い出話、西ケ原校舎のエピソード、また現役生からの最新情報など、話が尽きることなく大いに盛り上がりました。

参加者は、スペイン長期在住の山本正恵(S

昭40)、川又進(S昭49)、木村千枝子(S昭50)、宮崎光世(S昭55)、渡辺未知世(S昭59)、そして現役学生でUAM(マドリード自治大学)交換留学生の片桐久子、中谷智美（敬称略）。さらに研究休暇で1年在住の黒田清彦(S昭42)と妻・薫子(S昭54)です。

今回の開催にあたっては、私たち黒田が「是非ともマドリードで同窓の方々と会いたい」との思いで名簿の整理・連絡係を引き受け、川又支部長が場所を手配、黒田の帰国直前に会合実現となりました。中部支部長を務めている清彦は、川又支部長とコンタクトを取るのが礼儀と考え、また薫子は、学生時代からの知り合いである森正孝（Po昭54）デュッセルドルフ支部長から教えてもらった「支部運営のコツ（？）」をマドリード支部に伝えたいという思いもありました。1年間という短期滞在者に過ぎない私たちの「お節介」であったものの、これを機会にマドリード支部が活発化することを願っています。昨年夏の暑さ、そしてこの冬の寒さは、半世紀ぶりの異常気象をスペイン各地にもたらしました。また、回復の兆しが見えない経済危機により、私たちの愛するこの国は20%の失業率に苦しみ続けています。国の重要産業である観光も打撃を受けています。それでも明るく陽気なスペイン人、この気質はマドリード外語会員にもしっかり浸透しているようです。

マドリード支部会の新体制については、川又支部長から近々連絡の予定です。

東京外語会モスクワ支部

朝妻幸雄（R昭43）

4月3日、東京外語会モスクワ支部の懇親会を開催しました。池田事務局長の取り計らいにより、ロシアNIS貿易会があるオフィスビルの立派なレストランを借りきりの形で、総勢30名が集まりました。（注：現在の会員数52名）

昨年10月の開催から半年ぶりの会合となりました。帰赴任による多少の顔ぶれの変化はあったものの、会員数は一年前と変わっていません。このことは厳しいビジネス環境にあって、企業の駐在員の数が漸減傾向の中、たいへん喜ばしいことです。また、留学生は僅かながら増加（会員中13名）、将来、当地におけるわが母校の卒業生の活躍が期待され、頼もしい限りです。不肖、サンクトペテルブルクから駆けつけた朝妻（サンクトペテルブルク日本センター）の挨拶、次いで佐瀬名誉会長（R昭29）の乾杯の音頭で会が始まりました。そして会員諸君から自己紹介、近況報告が行われましたが、みんな元気で活躍している状況が伺われ何よりのことでした。また、留学生諸君が沢山集まったこともあり、明るい華やいだ雰囲気の中、次第に談論風発、まことに楽しい懇親会となりました。勿論ウオッカのボトルも沢山空になり、図らずも会員諸君がロシアの滞在で鍛えられていることが証明されました。なお、池田事務局長の提案によって、これまで概ね年一回のペースで開催してきた外語会支部の集いを、今回を皮切りに年2回とすることを、全員一致で取り決めました。次回の集まりを楽しみに、別れを惜しみながら、帰途についた次第です。

終わりに、この会を企画し、開催の労をとって頂いた池田事務局長（R昭51、ロシアNIS貿易会）と準備と当日の幹事役を引き受けていただいた原田さん（IP平9、石油天然ガス・金属鉱物資源機構）にお礼を申し述べます。